

# 令和元年度花粉測定講習会

と き 令和元年12月15日(日) 10:00～12:15

ところ 山口県医師会6階大会議室

花粉測定のさらなる精度向上のため、毎年度、標記講習会を開催しており、今年度も今村副会長の開会挨拶の後、講演2題、特別講演1題並びに花粉測定の実技講習等を行った。

## 講演

### 1. 2019年のスギ・ヒノキ花粉の飛散のまとめと2020年の飛散予測

山口県医師会常任理事 沖中 芳彦

昨シーズンは20機関で花粉数の測定を行った。今シーズンも同じ測定機関にご協力いただく。昨シーズンはスギ花粉捕集総数を、県内測定機関の平均値として、平年値(直近10年間の平均値2,700個/cm<sup>2</sup>)を上回る3,800個/cm<sup>2</sup>程度と予測したが、花粉総数の実測値は予測をはるかに上回る、過去最多の6,290個/cm<sup>2</sup>となった。一方、ヒノキも、前年に4,150個/cm<sup>2</sup>という過去最多の捕集数を記録したにもかかわらず、これまでで2番目となる2,790個/cm<sup>2</sup>(平年値は1,390個/cm<sup>2</sup>)という多くの花粉が捕集された。

今シーズンは、11月上旬のスギの木の観察結果より、県内測定機関の平均値として、約1,500個/cm<sup>2</sup>というスギ花粉総数の予測値となった。平年値が昨シーズンの大量飛散の影響により2,970個/cm<sup>2</sup>まで増加したため、平年の半分程度の値となる。

一方、ヒノキは、一昨年、昨年と比べると、今シーズンの花芽は少ないように思われるが、ヒノキはもともと花粉数の予測が困難なため、実際の飛散に関しては蓋を開けてみないとわからない。

ちなみに、1,500個/cm<sup>2</sup>は1次回帰式による予測であるが、より相関の高い指数回帰式では、予測数は約1,100個/cm<sup>2</sup>となった。

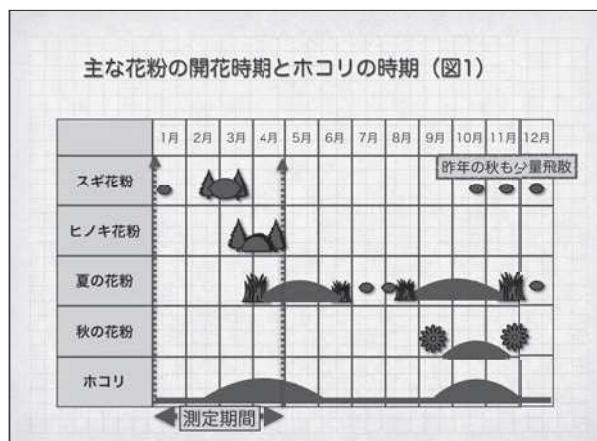
[報告：沖中 芳彦]

## 2. 春に見かける花粉

山口県医師会花粉情報委員長 日吉 正明

花粉測定の各測定施設では、顕微鏡下に各花粉を確認し分類し、その個数をカウントして山口県医師会事務局にFAX送信する。この4か月間に1種類の花粉のみの場合もあるが、数種類の花粉が混在することもある。このため、できるだけ正確に花粉を同定しカウントしていただくために、測定中に会うであろう樹木や草本の種類とその顕微鏡下の花粉の特徴を発表した。

観察期間は1月初旬から4月の4か月間だが、スギ花粉は1月にも少量飛散する。令和2年1月もすでに少数飛散している。この後の寒さでスギの木の冬眠ができれば飛散は多くなるが、暖冬であれば本格飛散は遅れて少なくなる可能性もある。逆に雨や雪が少なければ増える。令和2年はどうだろうか?(図1に大まかな時期をまとめている)。今後、スギ花粉飛散開始最盛期を迎えるが、3月中旬にはスギ花粉とヒノキ花粉が同時に観察される日も出てくる。また、地域によって期間がずれると思うが、ハンノキ花粉も同時期に観察される。さらに3月終わり頃からイネ科花粉も始まり、キク科花粉も観察されるかもしれない。そして4月以降になると、ブナ目のブナ、ク



ヌギ、ネコヤナギも見逃せないし、花粉としてはマツ科のアカマツ、クロマツ、バラ科のウメ、ボケ等も時期により混在し、判定に迷いをもたらす。

このため、まず基本となるスギ、ヒノキ及びハンノキの樹木の姿と花粉の元となる雄花序の姿をスライド供覧した。各々の花粉を供覧したのち、顕微鏡下に混在することもあるため、見分け方について供覧と説明を行った(表1)、(表2)、(表3)。

**観察期間の注目すべき花粉は？(表4)**

- ・ 樹木花粉
  - マツ目 ヒノキ科 スギ属
  - マツ目 ヒノキ科 ヒノキ属
  - ブナ目 カバノキ科 ハンノキ属
- ・ 雑草花粉
  - イネ目 イネ科 カモガヤ属
  - イネ目 イネ科 スズメノテッポウ属
  - キク目 キク科 ハルジオン属

**ハンノキ花粉は(表1)**

- ・ ハンノキ花粉はスギ花粉と重なるが、地域により、数も時期も異なる
- ・ ハンノキは花粉管口が5個と6個。これ以外の管口の数のものは算定しない。
- ・ 花粉症としてはスギ花粉症と同じ症状と考える
- ・ 舌下免疫療法はスギ花粉で有効。ハンノキには無効。ヒノキ花粉には部分効果あり。

**イネ科花粉は(表2)**

- ・ ヒノキ花粉飛散中から飛散
- ・ イネ科花粉は目視できる範囲からのみ飛散。
- ・ 花粉症としては自覚がない人が多い。
- ・ 反復する軽い風邪と考える人が多い。発熱があっても37.2°C程度。
- ・ ハンノキ花粉と同じく果物アレルギーに注意。
- ・ 喘息合併もあり得る。

**花粉の出現時期には(表3)**

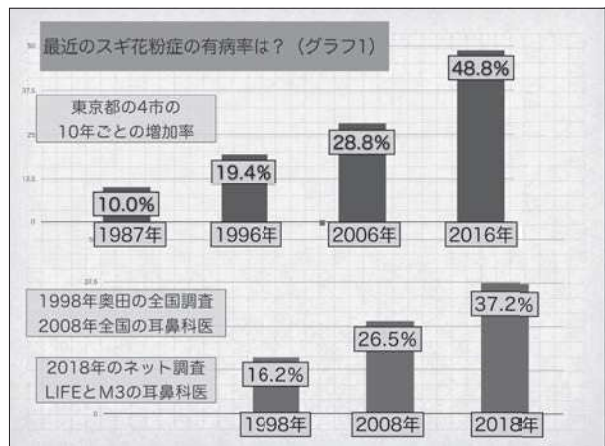
スギ花粉と一部ハンノキ花粉  
スギ花粉の終わりとヒノキ花粉の開始は重なることもある。どこかにハンノキが混在どちらも少ないときは鑑別もできるが、どちらが多いときには、容易ではない勘違いもあり得る。観察者の判断、慣れ。

スライドグラスに染色した直後は  
粒子はあまり水分を含まず膨らんでいない物も  
少し時間をおいて、十分に膨らむと判別しやすい

次にスギに近いメタセコイア、そしてハンノキに近いブナ目のコナラ、クヌギ、クリ、シラカンバ、ケヤキを供覧し、イネ科のカモガヤ、ハルガヤ、エノコログサ、スズメノテッポウ、ハルガヤを供覧、キク科のハルジオンなども供覧し、最後にサクラ、ウメ、ボケなどをスライドにて供覧した。

ところで、この花粉だが、現在の分類ではスギとヒノキは同じマツ目のヒノキ科に分類される。ハンノキ、白樺、ダケカンバ、ブナ、クヌギはブナ目となる(表4)。

2016年の東京都の詳細な調査で、東京都の4都市で全年齢のスギ花粉の有病率は48.8%であった。この調査では30年前の5倍に増加したということだった。また、耳鼻科医のWeb調査では、山口県は2018年のスギ花粉有病率は37.8%で20年前と比較して2.3倍の増加であった(グラフ1)。私のクリニックの受診患者さんでの年齢別スギ花粉陽性率は小学生で65%で





ある (グラフ 2)。次に、ヒノキ花粉及びハンノキ花粉の同陽性率はヒノキ花粉で 40%、ハンノキ花粉で 11%であった (グラフ 3)。ヒノキ花粉並びにハンノキ花粉はスギ花粉から少し遅れた年齢で陽性率は上昇し、中学から高校生で最高だった。前の全国の調査結果並びに山口県で 2019 年の飛散が非常に多かったことと合わせると、山口県民の約 40%の方がスギ花粉症であり、少なくとも小学生から春に悩ましい時期が来ることになる。このように考えると、山口県医師会による花粉情報提供は多くの県民の方のためでもあり、明日の診療のための、より良い診療のための情報源でもある。

最後に、スギ飛散開始後の花粉速報は希望される医療機関に毎日 FAX 送信も行っているのですが、希望される方は遠慮なく県医師会にご連絡ください。お待ちしております。

[報告：日吉 正明]

特別講演

アレルギー性結膜炎治療のダークサイド

～花粉症患者達は不安よな。ステロイド、動きます～

山口県立総合医療センター眼科副部長

内 翔平

内先生は、卒後9年目の新進気鋭の眼科医で私も開業医としてお世話になっている。まず、講演の始まりでは、「山口県で生まれ育ち山口高校、山口大学を卒業



した地産地消医師です」とユーモラスに自己紹介された。奥様も同業で、三人のお嬢様の子育てに奮闘中のイクメンでもいらっしゃる。

ご専門は「ぶどう膜炎」で、今回の「花粉症、アレルギー性結膜炎」とは眼炎症に対しステロイドを用いる点で共通点がある。

まず、アレルギーとは何か。5歳の長女は手に蚊がとまると、蚊を追いかける。これが正常免疫。1歳の三女は手にとまった蚊をじっと見ているだけ。これは免疫未獲得。3歳の次女は蚊がおでこにとまると、壁に激突してゆく。“この過剰な反応がアレルギーです”と楽しい比喻で本題がスタート。

眼球の構造より、結膜は外界に接触しているためアレルギーを起こしやすいこと、アレルギー性結膜炎の症状、鑑別診断、治療と講演は進み、後半はステロイドの副作用についてとなる。頻度が多く、かつ重篤になるまで発見されない眼科的障害はやはり緑内障。中心視野が最後まで保たれるため、特に片眼障害は自覚しにくいと症例を挙げて解説される。進行した緑内障視野のスライドを参加者の皆様は熱心にご覧になっておられ、きっと印象に残ったことと思う。また、ステロイド軟膏での眼圧上昇は時に経験するものだが、ステロイド点鼻薬でも眼圧上昇の報告があるそうで、自分も注意しようと思う。

今回の特別講演は、久々の眼科からの発信であった。さまざまな職種の参加者が興味を持ってアレルギー性結膜炎全般とステロイドの副作用について学ぶことができ、時宜を得た素晴らしいご講演であった。



**花粉測定の実技講習**

花粉測定の精度を高めるために、毎年、実技講習を開催している。まず、本会花粉情報委員の**金谷浩一郎**先生がスライドを使用して、花粉測定に際し、スギ及びヒノキの木の写真の提示、撮影方法並びに画像データの提供について花粉測定機関に対してお願いされた。その後、測定の経験が浅い出席者に対して、**金谷**先生並びに同委員の**綿貫浩一**先生の指導によりスギ、ヒノキ等の乾燥花粉を用いて実際にプレパラートを作成し、それを顕微鏡で観察して、それぞれの花粉の特徴を理解する作業を経験していただく実技講習を受けていただいた。対象者の方々は非常に熱心に学ばれていた。

[報告：山口県医師会理事 **長谷川 奈津江**]



測定地点		
地区	地域	測定機関 (敬称略)
東部	岩 国	河田尚己
東部	岩 国	小林耳鼻咽喉科医院
東部	柳 井	周東総合病院
東部	柳 井	松田医院耳鼻咽喉科
東部	大 島	さくら薬局
東部	光	光市立光総合病院
中部	防 府	ひよしクリニック
中部	防 府	カワムラ薬局
中部	山 口	済生会山口総合病院
中部	山 口	為近純子
中部	山 口	耳鼻咽喉科かめやまクリニック
中部	小 郡	小郡第一総合病院
西部	宇 部	沖中耳鼻咽喉科クリニック
西部	小野田	山陽小野田市民病院
西部	下 関	下関市薬剤師会
北部	美祢市	美祢市立病院
北部	長 門	長門総合病院
北部	長 門	綿貫耳鼻咽喉科
北部	萩	ナカモト薬局
北部	萩	堀耳鼻咽喉科医院

(令和2年1月から)



自動車保険・火災保険・積立保険・交通事故傷害  
 保険・医師賠償責任保険・所得補償保険・傷害保険ほか

**あなたにしあわせをつなぐ**

損害保険ジャパン日本興亜株式会社 代理店  
 共栄火災海上保険株式会社 代理店  
**山 福 株 式 会 社**  
 TEL 083-922-2551